

第一問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

河川は人間の経験を豊かにする空間である。人間は、本質的に身体的存在であることによって、空間的経験を積むことができる。このような経験を積む空間を「身体空間」と呼ぼう。河川という空間は、「流れ」を経験できる身体空間である。

河川の体験は、流れる水と水のさまざまな様態の体験である。と同時に、身体的移動のなかでの風景体験である。河川の整備と河川を活かした都市の再構築ということであれば、流れる水の知覚とそこを移動する身体に出現する風景の多様な経験を可能にするような整備が必要だということである。

河川整備の意味は、河川の整備が同時に、河川に沿う道の整備でもあるという点に関わっている。場合によって、道は、水面に近いことも、あるいは水面よりもずいぶんと高くなっていることもある。どちらにしても、ひとは歩道を歩きながら、川を体験し、また川の背景となっている都市の風景を体験し、そしてまた、そこを歩く自己の体験を意識する。

河川の体験とは、河川空間での自己の身体意識である。風景とはじつはそれぞれの身体に出現する空間の表情にほかならないからである。風景の意味はひとそれぞれによって異なっている。河川の空間が豊かな空間であるということは、何か豊かに造られているから豊かだ、ということではない。とりわけて何もつくられていなくても、たとえば、ただ川に沿って道があり、川辺には草が生えていて、水鳥が遊び、魚がハねる、ということであっても、そのような風景の知覚がひとそれぞれに多様な経験を与える。体験の多様性の可能性が空間の豊かさである。

豊かさの内容が固定化された概念によって捉えられると、その概念によって空間の再編が行われる。たとえば「親水護岸」は水に親しむという行為を可能にするように再編された空間であるから、空間を豊かにすることであるように思われるが、その空間は

「水辺に下りる」「水辺を歩く」というコンセプトを実現する空間にすぎない。そこでひとは、たしかに水辺に下りること、水辺を歩くことはできるが、それ以外のことをする可能性は排除されてしまう。この排除は川という本来自然のものが概念という人工のものによって置換されるということを意味している。それは本来身体空間であるべきものが概念空間によって置換されている事態と捉えることができる。

たとえば、流れに沿って歩いていくと、河川整備の区間によってそれを整備した事業者の違いによって、景観がちぐはぐになっていることがある。もちろんこれは同じ風景が連続していることがよいということではない。問題なのは、土を中心につくられている上流の景観が下流にいくに従って、大きな石によって組み立てられているような場合である。これは、川の相を無視し、事業主体の概念が流れる川を区分けし、その区分けされた川のダンペン^bを概念化した結果である。

川は、流れ来る未知なる過去と流れ去る未知なる未来とを結び現在の風景である。この風景を完全に既知の概念によって管理すること、コントロールすることは、川の本質に逆らうことになる。「河川の空間デザイン」という言い方には、危ういところを感じられるが、それは川のもつ未知なるものを完全に人間の概念的思考によってコントロールしうるもの、すべきものという発想が隠れているからである。

完全にコントロールされた概念空間に対して、河川の空間にもとめられているのは、新しい体験が生まれ、新しい発想が生まれ出るような創造的な空間である。川は見えない空間から流れてきて、再び見えない空間へと流れ去る。だから川は人生に喩え^{たと}られる。人生は、概念で完全にコントロールできるようなものではない。川が完全にコントロールされた存在であるならば、川の風景に出会うひとには、そのコントロールされた概念に出会うだけであろう。そうになると、川は、訪れた人びとそれぞれの創造性とは無縁のものとなってしまう。

都市空間は、設計から施工、竣工^{しゅん}のプロセスで完成する。建造物が空間をセッティングして、そこで人びとの生活と活動が行われる。空間の創造は、その生活と活動の空間の創造である。人びとの活動の起点は建造物の建築の終点であるが、都市計画そのものは竣工の時点が終点である。しかし、河川空間の事情は異なっている。竣工の時点が河川空間の完成時ではない。むしろ河川

工事の竣工は、河川の空間が育つ起点となる。それは庭園に類似している。樹木の植栽は、庭の完成ではなく、育成の起点だからである。

だから、河川を活かした都市の再構築というとき、時間意識が必要である。川は長い時間をかけて育つもの、自然の力によって育つものであり、人間はその手助けをすべきものである。自然の力と人間の手助けによって川に個性が生まれる。時間をかけて育てた空間だけが、その川の川らしさ、つまり、個性をもつことができる。

エ 河川の空間は、時間の経過とともに履歴を積み上げていく。その履歴が空間に意味を与えるのである。では、この時間にもとづく意味付与は、概念的コントロールによる意味付与とどこが異なるのだろうか。概念的コントロールによる意味付与は、河川空間の設計者の頭のなかにある空間意味づけであり、河川とはこういうものであるべきだ、という強制力をもつ。そのような概念によつてつくられた空間に接するとき、風景はヨクアツ的なものになってしまう。風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個人的な経験を積み、固有の履歴を積み上げることがソガイしてしまふ。

流れる水が過去から流れてきて、未来へと流れ去るように、河川の空間は、本来、時間を意識させる空間として存在する。つまり川の空間は、独特の空間の履歴をもつ。履歴は概念のコントロールとは違って、一握りの人間の頭脳の中に存在するものではない。多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む。こうして積み上げられた空間の履歴が、その空間に住み、またそこを訪れるそれぞれのひとが固有の履歴を構築する基盤となる。

人間はいま眼の前に広がる風景だけを見ているのではない。たとえば、わたしは昔の清流を知っているので、いまの川の水の色を見れば、どれほど空間が貧しくなったかを想像することができる。その人の経験の積み重ね、つまり、そのひとの履歴と空間に蓄積された空間の履歴との交差こそが風景を構築するのである。一人ひとりが自分の履歴をベースに河川空間に赴き、風景を知覚する。だからその風景は人びとに共有される空間の風景であるとともに、そのひと固有の風景でもある。風景こそ自己と世界、自己と他者が出会う場である。空間再編の設計は、ひとにぎりの人びとの概念の押しつけであつてはならない。

(桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』)

設問

- (一) 「身体的移動のなかでの風景体験」(傍線部ア)とはどういうことか、説明せよ。
- (二) 「本来身体空間であるべきものが概念空間によって置換されている事態」(傍線部イ)とはどういうことか、説明せよ。
- (三) 「それは庭園に類似している」(傍線部ウ)とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。
- (四) 「河川の空間は、時間の経過とともに履歴を積み上げていく」(傍線部エ)とあるが、どういうことか、説明せよ。
- (五) 「風景こそ自己と世界、自己と他者が出会う場である」(傍線部オ)とはどういうことか、本文全体の論旨を踏まえた上で、一〇〇字以上一二〇字以内で説明せよ。(句読点も一字として数える。)
- (六) 傍線部 a、b、c、d のカタカナに相当する漢字を楷書で書け。
- a ハ(ねる) b ダンペン c ヨクアツ d ソガイ

第二 問

次の文章は『十訓抄』第六「忠直を存すべき事」の序文の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

孔子のたまへることあり、「ひとへに君に随したがひ奉る、忠にあらず。ひとへに親に随ふ、孝にあらず。あらずべき時あらずひ、随ふべき時随ふ、これを忠とす、これを孝とす」。

しかれば、主君にてもあれ、父母、親類にてもあれ、知音、朋友にてもあれ、悪しからむことをば、必ずいさむべきと思へども、世の末にこのことかなはず。人の習ひにて、思イひ立ちぬることをいさむるは、心づきなくて、言ひあはする人の、心にかなやうにもおぼゆれば、天道はあはれとも思おぼすらめども、主人の悪しきことをいさむるものは、顧みかへみを蒙ること、ありがたし。さて、することの悪しきさまにもなりて、しづかに思ひ出づる時は、その人のよく言ひつるものをと思ひあはすれども、また心の引くかたにつきて、思ひたることのある時は、むつかしく、またいさめむずらむとて、このことを聞かせじと思ふなり。これはいみじく愚かなることなれども、みな人の習ひなれば、腹黒からず、また心づきなからぬほどにはからふべきなり。

すべて、人の腹立ちたる時、強こはく制すればいよいよ怒る。さかりなる火に少水をかけむは、その益なかるべし。しかれば、機嫌をはばかつて、やはらかにいさむべし。君もし愚かなりとも、賢臣あひ助けば、その国乱るべからず。親もしおごれりとも、孝子つつしんで随はば、その家全くあるべし。重き物なれども、船に乗せつれば、沈まざるがごとし。上下はかはれども、ほどほどにつけて、頼めらむ人のためには、ゆめゆめうしろめたなく、腹黒き心のあるまじきなり。陰かげにては、また冥加みやうがを思ふべきゆゑなり。

〔注〕 ○冥加——神仏が人知れず加護を与えること。

設問

- (一) 傍線部ア・イ・オを現代語訳せよ。
- (二) 「その人のよく言ひつるものと思ひあはずれども」(傍線部ウ)を、内容がよくわかるように言葉を補って現代語訳せよ。
- (三) 「このことを聞かせじと思ふなり」(傍線部エ)とあるが、それはなぜか、説明せよ。

第三問

次の詩は白居易の七言古詩である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

放^ツ旅^雁_一

元和十年冬^作

九江十年冬大雪^フ

江水^ハ生^ジ氷^ヨ樹^ハ枝^ハ折^ル

百鳥無^ク食^シ東西^ニ飛^ビ

中^ニ有^リ旅^雁_一声^ハ最^モ飢^エ

雪中^ニ啄^ツ草^ヲ氷^ニ上^ニ宿^リ

翅^ハ冷^エ騰^ノ空^ニ飛^ク動^ス遲^シ

江童持^シ網^ヲ捕^ト将^モ去^リ

手携^ヒ入^ル市^ニ生^ク売^ル之^ヲ

我^ハ本^モ北^ノ人^ニ今^ハ譴^{ケン}謫^{タク}

人^ト鳥^ト雖^モ殊^ナ同^ジ是^レ客^ナ

見^ル此^ノ客^ヲ鳥^ヲ傷^マ客^ニ人^ヲ

贖^ア汝^ヲ放^チ汝^ヲ飛^ビ入^ラ雲^ニ

雁^ヨ雁^ヨ汝^ハ飛^ビ向^カ何^ニ処^ニ

第^一莫^カ飛^ビ西^ノ北^ニ去^ル

健	官	淮
児 _ハ	軍 _ト	西 _ニ
飢	賊	有 _リ
餓 _{シテ}	軍 _ト	賊
射 _テ	相 _ヒ	討 _{ツモ}
汝 _ヲ	守 _{リテ}	未 _ダ
喫 _{くらヒ}	老 _{つかレ}	平 _{ラカナラ}
拔 _{キテ}	食	百
汝 _ヲ	尽 _キ	万 _ノ
翅 _シ	兵	甲
翎 _{れいヲ}	窮 _{マリテ}	兵
為 _{サン}	将 _ニ	久 _{シク}
箭 _{せん}	及 _{バント}	屯 _{とん}
羽 _ト	汝 _ニ	聚 _{しゆス}

〔注〕 ○元和十年——西暦八一五年。この年、白居易は江州司馬の職に左遷された。

○九江——江州のこと。今の江西省九江市。 ○江童——川べりの土地に住む子ども。

○譴謫——罪をとがめて左遷すること。 ○第一——禁止の意を強める語。決して。

○淮西——今の河南省南部。淮河の上流域。 ○賊——国家に反逆する者。

○兵窮——兵器が底をつくこと。 ○健儿——兵士。 ○箭羽——矢につける羽。

設
問

- (一) 「生売_レ之_レ」(傍線部 a)を、「之」が指すものを明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「同是客_レ」(傍線部 b)とは作者のどのような心情を表しているか、わかりやすく説明せよ。
- (三) 「贖_レ汝_レ放_レ汝_レ飛_レ入_レ雲_レ」(傍線部 c)とはどういうことか、簡潔に説明せよ。
- (四) 「將_レ及_レ汝_レ」(傍線部 d)とはどういうことか、具体的に説明せよ。